

目次

はじめに	
ボールルームダンスの学習指導 支援資料刊行に当たって	1
第一部 生涯学習とボールルームダンス	
生涯学習、生涯スポーツと ボールルームダンス	4
これからの学習とボールルームダンス	7
ボールルームダンスの学習と指導	10
ボールルームダンスの文化的特性	14
第二部 ボールルームダンス	
ボールルームダンスとは	18
ボールルームダンスの歴史	20
ボールルームダンスと音楽の関係	23
ボールルームダンスの種目別特性	24
チャチャチャ	24
ルンバ	25
スロー・リズムダンス(ブルース)	26
ワルツ	27
クイック・リズムダンス	28
タンゴ	29
サンバ	30
ジルバ	31
ボールルームダンスのエチケットとマナー	32
スタンダード種目の基本	34
ラテンアメリカン種目の基本	37
ボールルームダンスにおける ポスチャー・ポジション・ホールド	38
本書に使われているダンス用語	43

ボールルームダンスの 学習指導支援資料刊行に当たって

学校法人タイケン学園日本ウェルネススポーツ大学教授・筑波大学名誉教授
佐伯 年詩雄

近年、ボールルームダンスは世間の注目を浴び、その人気を急速に高めています。その起源はヨーロッパの宮廷文化ですが、ラテンの民衆舞踊等を取り入れた現代のボールルームダンスは、多様性を生かすグローバルな文化に発展し、踊りによる交流の楽しみと喜びを世界中に広げているからです。そして、IT革命に象徴されるメカニク的なコミュニケーションの急速な発達の中で、心と身体の直接的な触れ合いによるボールルームダンスのヒューマンな交流が、ますます重要となっているからです。

わが国の学校におけるダンス教育は、米国の影響と創造的人間形成の視点から、創作ダンス中心に展開されてきました。つまりダンスは、暮らしの楽しみ、教養としての生活文化であるよりは、専ら規律訓練の手段、人間形成の方法として取り扱われて来たのです。しかし、生涯学習の時代を迎え、文化享受を通じて、生きることの楽しみを広げ、喜びを深める生活に向けた教育が重要となった今日、「ダンスによる教育からダンスへの教育」への転換が求められています。従って、ボールルームダンスを、生涯を通じた心身の交流を享受する文化として、学校教育の中で積極的に取り扱うことが望まれているのです。

とりわけ、子どもたちをめぐる現代的な教育課題として、「バーチャルとリアル境界の喪失」が言われています。例えば、驚愕させられる事件が起こっています。信じられない事故が生じています。子どもたちに、何があったのでしょうか。子どもたちは、どうなってしまったのでしょうか。恐らく、年配の方々にとっては、こうした事故・事件を通じてみる現代の子どもたちの姿は、まったく理解不能に見えるでしょう。しかし、無限の「可能態」として子どもを捉え、それを尊重する視点に立つならば、驚愕すべき事件も、理解不能な行動も、無秩序な生活・学習環境が作り出した可能態としての子どもたちの歪みに他ならないのです。可能態としての子どもは、生活の中の学習を通じて自己の具体像を形創るわけですが、高度に発達したメディア環境の中で育ち学習する現代の子どもたちは、リアルな生活の現実から学ぶよりも、バーチャルな情報から学ぶことの方が、はるかに多くなっているのです。とりわけ、映像技術の驚異的な発達は、このリアルとバーチャルの境界を喪失させ、空想の世界と現実の世界が、暮らしの中で入り混じり、子どもたちの超現実的な行動を導き、扇動しているのです。

こうした現実と空想の混濁は、とりわけ子どもたちの人間関係の状況に現れています。携帯やパソコンを介した相互交流の中に知らず知らずに潜み、その

中でメディア増殖する自己像が超現実的な自己として捏造され、虚像の自己が闊歩し出すのです。空想の中で拡張する自己と現実の無力な自己の落差に、現代っ子のかかわり作りの未熟さ、かかわり力の弱さ、かかわらず的ライフスタイルの膨張があるのです。つまり、総じて言えば、子どもたちの現実的な社会力の衰退が、可能態としての子どもたちの発達における大きな歪みを生み出していると言えましょう。

ボールルームダンスは、相互の意思によってリズムと踊りを共有し、それを通じて具体的で直接的な心身の交流を享受する文化です。相手のまなごしはもちろん、汗も体臭も受け入れ、ひたすら相互にパートナーを尊重することによって、目の前の具体的な相手との通い合いを享受する文化なのです。その意味で、ボールルームダンスは、現代のバーチャルなIT交信の対極にある人間的交流こそを、お互いの努力を通じて作り出す最もヒューマニスティックな営みに他なりません。確かにその起源は、ヨーロッパ宮廷の社交ダンスに過ぎませんが、20世紀に世界中のリズムと音楽を取り入れたことによって、現代のボールルームダンスは、個性・多様性の相互尊重という原則の下に、豊かな人間的交流を享受するグローバル文化に発展しました。それは、ボールルームダンスが、意味の伝達を超えるメタ・コミュニケーションとして、交流そのものを享受する文化として、成熟したことを示しているのです。だから、今、かかわりの力を失った現代の子どもたちに、この心身の豊かな交流の文化を生かすことが望まれるのです。今、過剰化した虚構性の生を超えて、触れ合いの喜びを享受する文化の学習が求められるのです。

先に述べたように、これまでの日本のダンス教育は、創造性の開発と人間形成を重視し、創作ダンスを中心としてきました。しかし、暮らしにおける教養と文化の享受を通じた生活の質の探求がテーマとなる生涯学習時代には、ダンスへの教育と現代の教育課題に答えるダンスによる教育との統合が望まれるのです。こうした未来の声に耳を傾ける視点から見れば、ボールルームダンスは、きわめて大きな教育的可能性を持っていると言えましょう。そして、日本の子どもたちが、いつでも、どこでも、だれにでも、「シャル・ウィ・ダンス」と言えるようになる時、日本と日本人は、本当の意味で世界を理解し、世界によって理解されたと言えるのです。そのための試みは、まだ始まったばかりですが、この志を持つ限り、その未来は決して遠くないのです。

第一部

生涯学習と

ボールルームダンス